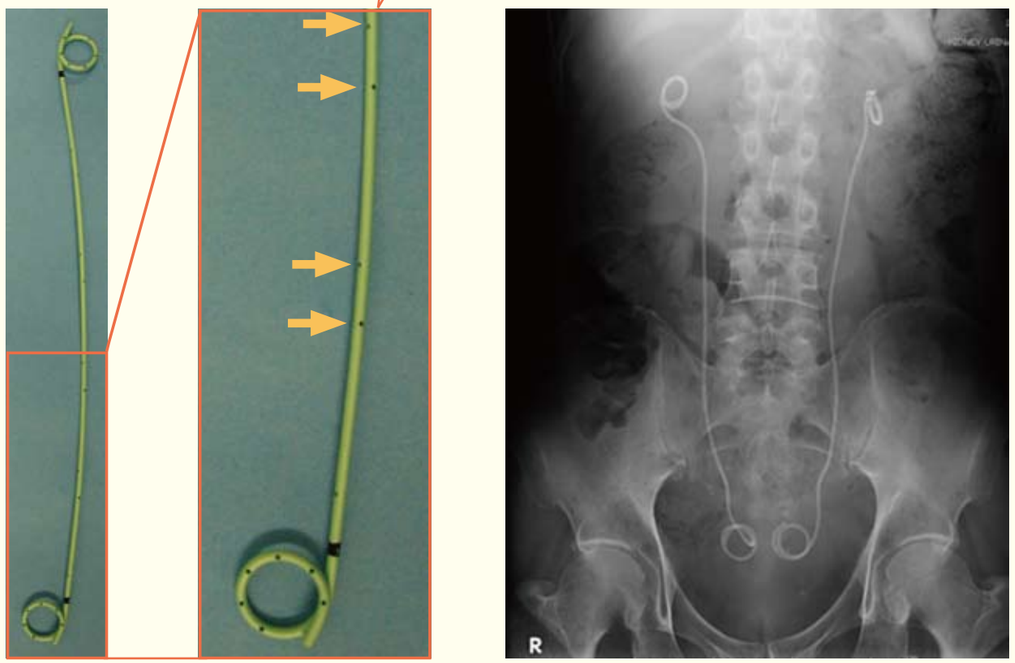

図1 尿管ステント（DJカテーテル）

図2 緩和ストーマ：腎瘻と膀胱瘻

り侵襲が低く，高齢者にも適した尿路緩和ストーマです。最近では腹腔鏡を用いて，さらに低侵襲な手術が可能となっています（図3）。腹壁に尿路用ストーマ袋を装着する必要があります。また，出口部狭窄がある場合には尿管にステントやカテーテルが留置され，定期的な交換が必要になります。

回腸導管造設術

回腸導管（図4）は腸管を利用した尿路ストーマで，長期間安定して腎機能を保てます。しかし，腸管を利用するため手術侵襲も高く，全身状態が手術侵襲に耐えられ，ある程度の予後が期待される場合などに適応が限られます。腹部に尿路用ストーマ袋の装着を必要としますが，原則カテーテルフリーであり，カテーテル交換の必要はありません。

図3 緩和ストーマ：尿管皮膚瘻
進行性膀胱がん患者に対する両側尿管皮膚瘻。腹腔鏡手術で施行したためストーマ孔以外には傷がなく低侵襲な手術となっている

図4 緩和ストーマ：回腸導管
進行性膀胱がん症例に緩和目的で造設された回腸導管（→）。手術直後のため尿管ステントが留置されている。左上腹部に結腸ストーマも同時に造設されている